

岐阜市の路面電車と繊維問屋街

写真は昨秋、県立岐阜高校に「出前講義」に行った時に撮ったものである。中学時代に高山にいた頃、岐阜高校はかなりランクが高く、私にとって「あこがれ」であった。こうして大学の教師になって、2年連続で「あこがれ」の高校の門をくぐることになった。

岐阜に行くとき必ず乗るのが、写真にある路面電車である。幼い頃、父に連れられて岐阜駅から美濃町線という路面電車に乗って、祖父母の田舎（確か「芥見」という駅だったと思う）まで行ったことがある。もう一つの写真は JR 岐阜駅前の繊維問屋街である。平日の昼前に撮ったものだが、閑散としていた。このあたりも再開発されるそうだが、昔のような活気が取り戻せるのであろうか。

いま岐阜市で問題になっているのが、路面電車の存廃をめぐる動きである。日本経済新聞の6月26日付けが特集記事を載せている。名鉄は乗客が落ち込む中で、岐阜市内線など3線から来年3月に撤退を決めた。岐阜市をはじめとした沿線市町は名鉄から資産を引き継いで存続を目指すのが、譲渡価格面などで折り合いがつかないというものだ。たとえ岐阜市などが引き継いだとしても、事業採算性から利用促進計画づくりが急務としている。

このレポートでも書いたことがあるが、EU 諸国などで新路面電車(LRT)が注目されている中で、岐阜でも存続できればと思う。そのためにも記事の最後にあるように、「地域住民と行政が連携した交通インフラの活用策づくりが問われる」ことになる。



2004年(平成16年)6月20日(日曜日)

名鉄との価格交渉 月末期限

岐阜の路面電車 存廃が正念場

利用促進計画が急務 住民行政連携カギ

年度	乗客数(千人)
95年度	10.5
96年度	10.0
97年度	9.5
98年度	9.0
99年度	8.5
00年度	8.0
01年度	7.5
02年度	7.0

利用促進計画が急務 住民行政連携カギ

名鉄は乗客が落ち込む中で、岐阜市内線など3線から来年3月に撤退を決めた。岐阜市をはじめとした沿線市町は名鉄から資産を引き継いで存続を目指すのが、譲渡価格面などで折り合いがつかないというものだ。たとえ岐阜市などが引き継いだとしても、事業採算性から利用促進計画づくりが急務としている。

このレポートでも書いたことがあるが、EU 諸国などで新路面電車(LRT)が注目されている中で、岐阜でも存続できればと思う。そのためにも記事の最後にあるように、「地域住民と行政が連携した交通インフラの活用策づくりが問われる」ことになる。

(7月5日 記)